日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞ 0.5 単位（申請中）

熊本つぼみの会市民公開シンポジウム

～１型糖尿病のベストライフを考える～

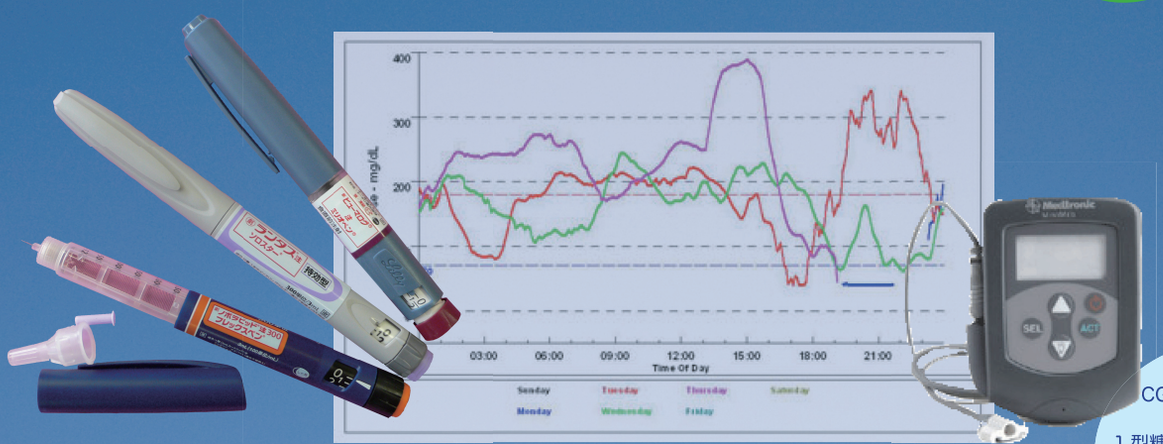
2012 年

1 月 29 日 日

１時から４時

くまもと森都心プラザ　5F　プラザホール

参加費 500 円
会員無料



CGM（持続血糖測定）から読み解く１型糖尿病の血糖コントロール術、自身の体験から患者家族と医療者に対するメッセージをお話しいただきます。

第１部：基調講演　座長　医療法人社団陣内会　陣内病院　院長　陣内　秀昭　先生

講　演 **「1 型糖尿病患者と CGM の出会い」**

糖尿病だってなんでも出来る！けど…

医療法人社団陣内会　陣内病院　薬剤師　吉田　陽　先生
（日本糖尿病療養指導士／１型 DM 患者）

人工膵島開発の歴史をひもときながら、１型 DM の病態と治療、今後の治療環境の展望などについてお話しいただきます。

特別講演 **「ここまで来た 人工膵島」**

国保水俣市立総合医療センター　糖尿病内分泌センター所長　西田　健朗　先生

第２部：フロアディスカッション

コーディネーター：　陣内　秀昭　先生

糖尿病専門医の立場から：　西田　健朗　先生

日本糖尿病療養指導士（薬剤師）＆患者の立場から：　吉田　陽　先生

日本糖尿病療養指導士（管理栄養士）の立場から：　池田亜須香　先生
（医療法人社団陣内会　陣内病院　管理栄養士）

患者家族の立場から：　熊本つぼみの会　副会長　花木　栄吉　さん

参加者のみなさんの質問や悩みに対して、パネリストが各立場の豊富な経験からアドバイスを加えながら、１型糖尿病患者がベストライフを送るための血糖コントロールのあり方についてディスカッションを行ないます。

▶1型糖尿病をご存知ですか？

糖尿病には大きく分けて１型と２型という２つのタイプがあります。
生活習慣病として誰もがご存知の糖尿病は２型です。
２型の場合、生活習慣の乱れによってすい臓が疲弊して発症しますが、
１型の場合は、ある日突然、すい臓のβ細胞が破壊されることで、インスリンというホルモンの分泌機能を失ってしまうタイプの糖尿病です。
その多くが小児期に発症するため、小児糖尿病とも呼ばれています。

▶インスリンって何？

インスリンは、人間が生きて活動するためのエネルギーである「糖」を、血管内から血管の外の細胞に送り出す働きのあるホルモンです。
食べ物を摂取して消化吸収の後、血液中にどれだけ「糖」があってたとしても、インスリンの働きがないと、細胞が血管から糖を取り出して使うことができないために、栄養失調状態に陥ることになります。
昔は、発症後 10 日ほどで亡くなってしまう“死の病”でした。
1921 年にインスリンが発見され、体内では分泌されなくなってしまったインスリンを注射によって補うことができるようになったことで、エネルギー代謝ができるようになり、生きることが可能になったのです。

▶どんな治療をするの？

インスリン製剤の登場によって、生命を失うことがなくなったかにみえた１型糖尿病でしたが、その後、別の大きな生命の危機があることがわかってきました。
血糖が高い状態が 10 年、20 年と長く続くと、糖によって血管が脆くなり、様々な血管合併症を発症してしまうのです。かといって、血糖が低いと、当然エネルギー不足となりますし、低すぎると、脳へのブドウ糖供給を優先するために低血糖の症状（気分不良や昏睡など）が現れ、身体活動ができなくなります。血糖値は高すぎても低すぎてもいけないのです。
本来、人間は刻々として変化する身体の活動状況に応じて、血液中の糖を、血管を傷めない、かつ、身体活動が十分に可能な最適の量に保つ繊細な作業を無意識で行っています。
１型糖尿病では、これを自分で“意識して”行うことが求められるのです。
現在、１型糖尿病では、本来のすい臓のインスリン分泌に近い形になるように、様々な効き方をするインスリン製剤を組み合わせて、痛みの少ないペン型注射器で１日複数回注射し、自分で血糖を測定しながら「血糖をコントロール」する生活を送っています。

▶今回のシンポジウムで熊本つぼみの会が行いたいこと。

一口に「血糖コントロール」といっても、簡単なことではありません。
血糖は、食べ物、運動、体調、ストレスなど、いろんな要因で容易に変動します。
常にこの先の自らの行動と、それによってどう血糖が変動するかを予測しながら、それにあわせてインスリン注射や補食（糖の補給）を考え、実行しなければなりません。
この煩わしさをどう乗り越えるか。
よりよいコントロールを実現するにはどうすればいいのか？
さらには、この煩わしさから自由になれる日はくるのか？
専門の医療者から最新の情報を解説いただき、
ご参加いただいた皆さんと一緒に１型糖尿病のベストライフを考えたいと思っています。

平成 23 年 11 月

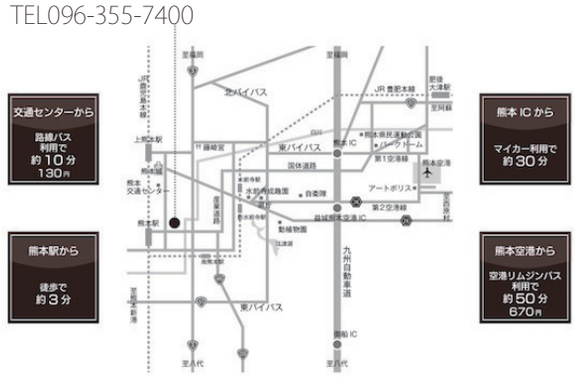
熊本つぼみの会

●シンポジウム会場アクセス

くまもと森都心プラザ

5F プラザホール

熊本市春日１丁目 14-1（熊本駅前）
TEL096-355-7400



会場 info.URL http://stsplaza.jp/information/access.html

●駐車場は、プラザ専用のものはありません。
熊本駅周辺の民間の駐車場をご利用ください。
●プラザ 4F に託児室があります。（１人３時間まで 500 円）

小児１型糖尿病患者・家族の会

熊本つぼみの会のご紹介

あなたのお子さんは小児糖尿病（1 型糖尿病）です。一生治らない病気で、これからは毎日、インスリン注射を行なわなければなりません。

・・・そう言われた時の驚き、戸惑い、悲しみ、不安、絶望。
熊本つぼみの会の会員、皆が経験した気持ちです。
インスリンと共にある生活の中では、お子さんの成長の時々で細かい日常生活上の疑問や周囲の人達には理解いただけない不安がわきあがることもあります。
「こんな時、他の人はどうしてるんだろう？」
熊本つぼみの会は、そんな悩みや不安を持った時、子どもは子ども同士、親は親同士、仲間達との語らいの中での体験談の交換や、糖尿病専門医や専門スタッフのアドバイス、様々な関連団体から寄せられる情報で、互いに助け合う患者・家族会です。

主な活動
●講演会、懇談会、レクリエーションなどの交流行事（年２回）
●日本糖尿病協会の月刊誌「さかえ」と、
１型糖尿病治療に関わる資料の発送（月１回）

年会費　18 歳未満の方：4,400 円、18 歳以上の方：5,000 円

本シンポジウムや会活動に対するお問い合わせはこちらへ

熊本つぼみの会事務局

〒 862-097　熊本市九品寺 6 丁目 2-3
（陣内病院 4F）
TEL　096-363-0011
（陣内病院内線 402/ 担当：永原）
FAX 096-364-2647
E-Mail　hisyo@jinnouchi.or.jp

後　援

熊本県、熊本市、熊本県医師会、熊本市医師会、日本糖尿病学会九州支部、熊本県薬剤師会、熊本県看護協会、熊本県栄養士会、熊本県臨床検査技師会、熊本県理学療法士協会、糖尿病教育ネットワーク KUMAMOTO、日本糖尿病協会熊本県支部、NPO 法人日本 IDDM ネットワーク、NHK 熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、熊本日日新聞社